

令和2年度第2回大分市子ども・子育て会議 議事録

1. 開催日時

令和3年1月27日(水) 午後2時～3時

2. 開催場所

大分市役所本庁舎8階 大会議室

3. 出席委員

古賀 精治会長、仲嶺 まり子副会長、赤峯 慎太郎委員、安東 正義委員、
板井 善江委員、井上 晶子委員、今村 博彰委員、大津 康司委員、川口 京子委員、
定宗 瑛子委員、佐藤 さゆり委員、澤口 博人委員、秦 昭二委員、関口 功二委員、
田辺 徹委員、野崎 弘子委員、平野 昌美委員、淵野 二世委員、吉岡 泉委員

4. 傍聴者

なし

5. 次第

1. 開会

2. 議事

(1) 特定教育・保育施設等の利用定員について

(2) 令和2年度第1回大分市子ども・子育て会議(書面開催)でいただいたご意見について
(すくすく大分っ子プラン令和元年度実績)

3. その他

4. 閉会

6. 会議資料

次第

資料① 特定教育・保育施設等の利用定員について

資料②-1 令和2年度第1回子ども・子育て会議 委員からのご意見

資料②-2 すくすく大分っ子プラン令和元年度実績について(抜粋)

7. 議事概要

議事(1)特定教育・保育施設等の利用定員について

<主な意見等>

(委員)

1月時点の待機児童の数について教えてほしい。

(事務局)

待機児童の数の集計は毎年4月と10月の2回集計している。現在10月の待機児童数を集計中であるが、かなりの数が出ると考えている。

議事(2)令和2年度第1回大分市子ども・子育て会議(書面開催)でいただいたご意見について

(すくすく大分っ子プラン令和元年度実績)

<主な意見等>

●子育て講演会の実施(資料②-1連番2、資料②-2No.7)について

(委員)

子育て講演会については、今年度から小学校での実施ということで幼稚園や保育園での実施がなくなったが、乳幼児期の子どもの保護者を見ていると、この時期の保護者への教育、啓発が必要だと感じている。そのことについてはどう考えているのか。

(事務局)

子育て講演会としては、市内全小学校で行われる就学時健診の機会を中心に実施していくが、今後も幼稚園、認定こども園、保育園等から保護者対象の講演会の開催について相談を受けた場合は、講演会テーマの設定や講師の紹介など引き続きサポートしていきたいと考えている。

(委員)

この子育て講演会とNPお母さんひろば(資料②-1連番4、資料②-2No.9)との違いは。

(事務局)

NPお母さんひろばは、在宅で子育てを行っている母親が対象。NPとは、「ノーバディーズパーフェクト」、完璧な親なんていないという趣旨のもと、カナダで生まれた親教育プログラムのひとつで、1週間に2時間、6回連続の託児付き講座を、こども園や子育て交流センターなどで実施している。

また、子育て講演会は、就学前の子どもを持つ保護者を対象に、小学校での就学児健診や入学説明会等、多くの保護者が集まる機会を活用して子育てに関する講演会を行い、保護者が子育てについて学習する機会を提供している。

●待機児童の解消(資料②-1連番 10、資料②-2No.19)について

(委員)

令和2年4月に待機児童はゼロになったということだが、4月時点でも保育園に入れていない子ども(未入所児童)はいるのか。保護者も経営者も、保育園に入れるかどうかということで待機児童のことは気になっている。

(事務局)

待機児童はゼロになったが、未入所児童は多くいる。市としても希望園以外の空き状況などを情報提供して、未入所児童の解消に努めているが、特定の園のみを希望する方などがある。また、このこととは別に年度途中での入所希望については、空きがなく、入所が難しい状況となっている。

(委員)

定員割れしている施設がある。もっと活用するための検討を。例えば、3歳以降は預かり保育を活用して1号認定で預かるなど。

(事務局)

1・2歳児の需要がまだまだ多く、それに対応するための保育士も足りていないので、様々な角度から検討していく。

●幼稚園教諭や保育士等の人材確保(資料②-1連番 14、資料②-2No.22)について

(委員)

2期計画の指標は1期の「ハローワークの月平均有効求人数」から「常勤保育士の離職率」へ変更しているが、求人に関する対策も並行して進めていくということでよいか。

(事務局)

両輪で進めていくように施策も検討していく必要があると考えている。

(委員)

公立保育所と私立保育施設の給与の差を改善するための検討をしてほしい。

(事務局)

現在も処遇改善のための補助事業を行っている。

(委員)

来年度公立保育所の保育士を募集するようだが。

(事務局)

公立保育所の保育士募集については、退職者の補充や、現在、コロナ対策のため保育所に配置している保健師が保健所の業務に携わっており、保育所職員の減員に伴う対応などで、単に増員するのではない。

●延長保育事業(資料②-1連番 17、資料②-2No.28)について

(委員)

(延長時間が1時間の場合でも)対象児童が6人未満の場合、補助額が30万円となることがあり、補助金が不足している。補助額が30万円以下となる施設は、どのくらいあるのか。

(事務局)

昨年度実績で61施設である。

(委員)

園長会から子ども・子育て会議で上げるよう要望があつて、話をしている。国が動かないのであれば、市として上乗せを検討してほしい。

(委員)

決算額について、平成26年度に対して平成27年度以降はかなり金額が減っているのはなぜか。

(事務局)

平成27年度から子ども・子育て支援新制度が始まり、補助金の額は純粹に延長保育事業のものとなっているが、平成26年度以前は通常保育分も国の制度上、一部補助金の額に含まれていたことによる。

●関係機関との連携強化(資料②-1連番 23、資料②-2No.58)について

(委員)

関係機関との連携について、私は訪問介護の仕事をしており、精神疾患を患っている母親のケアをすることがよくあるが、その中で、子どもを虐待してしまった母親もいる。児童虐待に関しては、母親への支援が乏しいと感じているが、母親への支援についてはどのようになっているのか。また、数値目標のようなものはあるのか。

(事務局)

そのような親への支援としては、母親のみならず、親への支援ということになるが、子ども家庭

支援センターにおいて、親支援のプログラムを実施している。実施にあたっては資格の取得が必要であり、子ども家庭支援センター職員が研修受講したうえで、プログラムを行っている。具体的な数値目標は設定していないが、今後は職員の研修受講者を増やし全職員が資格を取得したうえで、より多くの親に対し、寄り添い型の支援ができるようにしていきたい。

●その他(資料②-1連番 26)

(委員)

大分市の見解として「児童福祉施設としての役割」とあるが、認定こども園は「学校」としての役割もある。休日などに市に相談するための緊急連絡先を設定してもらえないか。また、園独自の判断も尊重してもらいたい。

(事務局)

このご意見に対しては「児童福祉施設」としての側面からの回答としている。夜間休日の連絡方法としては、市役所の時間外連絡先に一度連絡していただき、こちらから折り返すという方法で周知もしているので、確認いただきたい。

●全体の感想として

(委員)

コロナ禍で、医療ももちろんだが、保育施設や児童育成クラブも非常に努力していると思う。保育施設の中には、アパートの一室にあたり、園庭がなく近くの公園に行っているようなところもある。保育施設としての安全性など、安心して預けられるように指導をお願いしたい。

(事務局)

保育施設には、それぞれ基準が定められており、基準の遵守状況について、開設時だけでなく開設後も確認を行っており、安全・安心して預けられるよう指導している。公園へ行く場合なども、安全対策について十分な取り組みがなされているか確認しており、今後も指導を徹底していく。